

活動報告

わいわいコミュニティ・たまがわ 保育活動報告

高松 あずみ

TAKAMATSU, Azumi

高橋 敬子

TAKAHASHI, Noriko

(わいわいコミュニティ・たまがわ保育担当)

はじめに

わいわいコミュニティ・たまがわ（通称「わいコム」）は2008年に地域の多世代交流をめざして発足したグループである。月2回の「ゆったりカフェ」（カフェ開催とひろば保育）を軸に地域の方との様々な交流を行っている。5年目を迎えたところで、メンバーの役割や会の運営方法などが少しずつ固定化してきている状況にあり、4年間の活動を小冊子「コミュニティカフェ・はじめの一步」にまとめている。

このレポートではその冊子には詳しくとりあげなかった保育に関して、これまでの状況や参加者の推移、課題、これからの方向性や目標などを記したいと思う。一時保育の重要性や運営のノウハウなどを多くの人に知ってもらいたい。

1. ゆったりカフェ

ゆったりカフェ（以下「カフェ」と記す）は「食事サービスサポートセンター〈だんらん〉」にて月2回（原則第2木曜日と第4月曜日）に開催している。仲間で同じ釜の飯を食べる「おなかまめし」をコンセプトに、メンバーが企画した料理を参加者と共に作って食べる。原則2か月に一度フリー栄養士グループ「ばせり」さんのメニューと指導もいただき、毎回和気藹々と料理を楽しんでいる。今年度より、参加者が、作ってみたいメニューを提案し、レシピ作りや調理の講師役などを担当する試みも導入している。

保育スタッフはカフェの料理参加者のお子さんの保育を10:00～12:30の間担当する。保育場所は原則「だんらん」2階の和室（20畳）としている。保育室はひろばとしても開放しており、だれでも利用できる。開放時間は10:00～16:30である。

2. 保育の内容

現在、ゆったりカフェの保育の受付・予約は主にメールで行っている。情報紙「わいコム」においてもカフェ日程や予定メニューなどを掲載している。

「ゆったりカフェ通信（メールマガジン）配信後、それに返信メールの形で「お料理参加+保育」の申込みを受けた順に受付をしていく。以下保育環境について記す。

・保育スタッフ人数： 各回カフェ開催前にあらかじめ決まっており、固定スタッフ（2

名) + 依頼スタッフ 1~2 名としている。スタッフは各回 3 名、最大 4 名になるように調整している。

- ・保育受付可人数： 平均 5~6 名を想定している。時には保育スタッフとのかねあいで人数調整をし、お断りすることもある。保育人数の調整は一つの課題である。
- ・保育場所と時間： 原則だんらん 2 階和室で行う。(保育人数が 1 名のときに 1 階会食室で保育を行ったこともある。)
- ・備品： おむつ替えベッドと衛生用品は 2 階のロッカー室に収納 (施設あり)、身長計、体重計は適時運搬使用、CD カセットデッキは借用 (1 階会食室よりスタッフが運ぶ。)
- ・おもちゃ： 1 階保管庫に収納してあるおもちゃをスタッフが運ぶ。保管庫に入りきれないおもちゃは、近所の方の好意で自宅屋外倉庫に保管していただき、またわいコムスタッフが車で運搬している。おもちゃ保管・運搬も課題である。
- ・トイレ： 一階、階段を下りて保育者が同行。
- ・飲食： 水分のみ補給できるように、持参してもらう。食物は厳禁としている。
- ・保育者の体制： 原則として見守りのみ、何かを指導したりすることはない。
- ・保育者への給付： 安全・責任を果たすという意味において、保育者は世田谷区社会福祉協議会で行っている「子育て支援者養成研修」(実習付き)修了者または保育士資格者に依頼している。時給 900 円(2012 年 6 月 1 日以降。それまでは時給 850 円*最低賃金を上回る額としてきた)および交通費を支払っている。この金額支払は助成金(2008. 6~2009. 3、2012. 4~2013. 3 世田谷区子ども基金、2009. 4~2012. 3 公益信託世田谷まちづくりファンド)と利用者が負担する保育費用(一人 500 円/1 回)にてまかなっている。

3. 保育の課題

カフェでの保育は大変多様であり、スムーズなときもあれば、そうでないときもある。幸い今まで事故などは起こっていないが、ひろばの人数・混雑度は予想できないときも多く、人が死角になって、ひやりとする場面もある。

<現在の課題整理>

- (1) 保育の人数調整方法について固定化していない
- (2) 保育スタッフへの支給額と利用者の負担金、助成金のバランス、保育スタッフの充実
- (3) おもちゃや本の管理をどうするか、おもちゃを増やすべきか

<これまで行った保育全般の改善方法>

- ・ 保育者の人数をできるだけ早く決定する
- ・ 保育者自身が前述したメールマガジンを約 10 日前に配信し、保育人数把握し調整しやすくする
- ・ 保育キャンセル待ち（当日朝までの双方メールでの連絡）の導入によって、当日キャンセルが起こってもカフェ参加者の人数が激減しないようにする。またこれにより参加者が土壇場キャンセルを重荷に思うことが軽減される
- ・ 保育チェックシートを作成（当日の保育充実のため）し、その日の保育参加児の情報を保育者全員が共有できるようにする（参考 図表 1）
- ・ 保育全般について、カフェ参加者からヒアリングをする
- ・ 今年度助成金から算出した保育予算より、保育スタッフ人数を 2.5 人/回（これは 2 回で 5 人、年間で延べ 30 人というところから算出）を目指す。そのために、毎回平均 3 名のうち 1 名を見守りスタッフ（時給支払でなく交通費+ランチ代支給）とする。また保育人数が少ない回は保育者の人数を減らすことができるように、当日でもキャンセルが多くなったりすればスタッフからはずれることができるような体制にしておく（固定スタッフの一名を待機状態とする）
- ・ 本や CD を和室据え置きの本棚に収納させてもらっていることで運搬負担軽減

No.	名前（ふりがな）	ご家庭での当日の様子				保育中の様子			備考
		起床	排便	着衣	離乳	トイレ	水分	遊び	
	()					おむつ	補給	様子	
	月齢								

図表 1 保育チェックリスト

<今後の方針や目標について>

(1) 保育の人数調整方法について

保育延べ人数、保育スタッフの意見交換、保育参加者傾向 などから今後の人数調整方法を検討する。特に 2012 年 5 月度より保育改善を行った後の傾向判断をおこない、また過去の参加人数や月齢などのデータを整理することによって、今後の保育人数調整に役立てるという手法をとる。

現状予測：

- ① 1 歳児は保育の多様性が最も多く見られる年齢であり、その月齢（つまり 1 歳から 2 歳まで）によって発達の違い（例えば、言葉、母親から離れたときの状態など）に差

がある。

②参加者の傾向としては、「カフェ参加を楽しみたい、お料理を楽しみたい」という方が多いのだが、保育に初めて参加する時は大変不安であり、躊躇感があると思う。

③初めて参加のお子さんよりも、2、3回目参加したときに母子分離が難しいことが多い。

データ整理と分析：

年度	保育人数合計(人)	回平均(人)
2008.3～2009.3	65	2.7
2009.4～2010.3	54	2.3
2010.4～2011.3	92	3.8
2011.4～2012.3	68	2.8
2012.4～2012.9(年度途中)	57	4.8
年度合計	336	3.3

図表 2. 保育人数 (2008年3月度より2012年9月度まで)

・図表 2 は 2008 年度から 2012 年度まで各年の保育人数と各回の平均参加者数を表したものである。4 年半の延べ参加人数は 336 名で、各回平均保育人数は 2.3～4.8 名の幅で推移し、全体平均 3.3 名/回となっている。

日時	曜日	保育人数	1歳児人数	保育年齢合計 *1	保育平均年齢	保育者人数	保育人数/保育者	1歳児指数 *2	保育指標 *3
5/10(No.1)	木	5	2	11.24	2.25	3	1.67	4.00	0
5/28(No.2)	月	5	3	9.49	1.90	4	1.25	6.00	1
6/14(No.3)	木	6	2	14.66	2.44	4	1.50	3.33	0
6/25(No.4)	月	7	3	16.66	2.38	4	1.75	4.29	1
7/12(No.5)	木	5	1	9.66	1.93	2	2.50	2.00	1
7/23(No.6)	月	6	1	10.58	1.76	4	1.50	1.67	1
8/9(No.7)	木	3	1	5.91	1.97	3	1.00	3.33	0
8/27(No.8)	月	4	1	6.91	1.73	3	1.33	2.50	0

図表 3. 保育の状況 (2012年5月度より2012年8月度まで)

*1 1か月を 1/12 (=:0.083) として計算する

*2 1歳児人数/保育人数 * 10

*3 「30分以上泣き続けるお子さんが一人以上いる」or「一人の保育者がつきっきりでケアが必要だった」時に 1 とする

*4 図表数値はいずれも小数点第 2 位までを四捨五入で求めている

- ・図表3は2012年5月から8月まで(計8回)の保育人数や保育平均年齢などを表したものである。保育の課題を受け、改善策を取り入れた後の詳細データである。通常(夏季・冬季休暇時はイレギュラー)の保育受け入れ年齢としては生後6か月～幼稚園入園前年齢(ほぼ4歳)までであり、保育平均年齢は1.5～3歳/回で推移している。(8回保育平均年齢は2.05歳、保育人数平均は5.13名である)
- ・保育者人数は各回3名、最大4名をめぐり1か月前までに依頼している。児童福祉法を参考にすると、0歳児は一人につき一人保育者を設置することになっているので、0歳児依頼があれば対処することになっている。
- ・月曜日と木曜日を比べた場合、月曜日の利用者の方が若干多いという傾向にある。これは児童館や図書館など公共機関の休館によるところも大きいのかもしれない。ひろばの利用状況もほぼ同じといえる。
- ・1歳児指数とは現状予測①により、全体保育人数に対する1歳児の人数の割合が保育にどのような影響があるかをみるために便宜的に定義したものである。
- ・保育の難しさの指標というものは主観によることが大きいので、ここでは「30分以上泣き続けるお子さんが一人以上いる」or「一人の保育者がつきっきりでケアが必要だった」時を一つの保育指標と考えている。表ではこれらの場合保育指標を1としている。
- ・保育者人数と1歳児指数の関係をみると、保育者の人数が4名であった2,3,4,6回目の比較ができる。このうち第6回目は初めて参加のお子さんが2人であったため保育指標は1となったが、2回目と4回目はいずれも1歳児指数(1歳児の人数の全体に対する割合)が保育者数4を超えていることがわかる。

日時	曜日	A:保育人数/ 保育者	Aの平均値	B:1歳児指数 +2	Bの平均値	保育指標 +3
5/10(No.1)	木	1.67	1.38	4.00	3.29	0
6/14(No.3)	木	1.50		3.33		
8/9(No.7)	木	1.00		3.33		
8/27(No.8)	月	1.33		2.50		
5/28(No.2)	月	1.25	1.75	6.00	3.49	1
6/25(No.4)	月	1.75		4.29		
7/12(No.5)	木	2.50		2.00		
7/23(No.6)	月	1.50		1.67		

図表4. 保育指数0の時と保育指数1の時の比較